



2010年8月、浜岡総合グラウンドで練習する飯塚さん

©月刊陸上競技

走ることが好きだから、これからも走り続ける

走ることに目覚めた日

飯塚さんが陸上競技を始めたのは、小学3年生の時。小笠・掛川地区の陸上競技大会の100mで優勝し、地元のクラブチーム「小笠AC」の恩田勝美監督に誘われたのがきっかけだった。毎週、水曜日と金曜日が浜岡総合グラウンドでのナイター練習。日曜日は、浜岡砂丘で走り込んだ飯塚さん。オリンピック選手の原点がここにある。

苦しい時を乗り越えて

飯塚さんは、小学6年の時点で身長が170cm、中学1年で180cm近くまで伸びたため、骨の成長と筋肉の成長のバランスが崩れる「成長痛」に悩まされた。中学2年から3年の時は座骨神経痛を発症し、まともに走れない時期もあったという。市民プール「ぶるる」に通ってひたすら水の中を歩いていたのがこの頃である。中学2年生の時には走り幅跳びでジュニアオリンピックへ出場しているが、これは得意とする短距離を全力で走れなかったことによるもので、そのような状態で臨んだ大会であつても全国8位という成績を残した身体能力には驚かされる。当時からスタートがあまり速くなく、後半に伸びてくるタイプといわれていた飯塚さんだったが、中学3年生の時のタイムは、100mが10秒9、200mが22秒2で、いずれも中学生の全国ランキングのトップ



▲小学3年生当時の飯塚さん



▲小学6年生で大人顔負けの体格